

静かな空

連絡先 742-2513 山口県大島郡周防大島町森 365 中尾久利 Tel+ Fax : 0820-78-1246

県議会請願「地位協定改定の意見書を」 否決

全国知事会、全国7道県、市町村の議会が、国にたいして、日米地位協定の改定を求める意見書を提出しました。山口県知事も全国知事会の意見書採択に加わっています。そこで「岩国基地の拡張・強化に反対する広島県住民の会」と「瀬戸内ネット」連名で、山口県議会に「日米地位協定改定を求める意見書を政府に提出すること」を請願しました。紹介議員は秋野哲範、井上剛、井原すがこ、小田村克彦、木佐木大助、坂本哲也、戸倉多香子、中嶋光雄、藤本一規、宮本輝男の10名でした。

請願文（要旨）

全国知事会は日米地位協定の抜本の見直しを含む「米軍基地負担に関する提言」を全会一致で採択しました。全国知事会では初めてのことです。

提言では、米軍機による低空飛行訓練等について「国の責任で騒音測定器を増やすなど必要な実態調査を行なうとともに、訓練ルートや訓練が行なわれる時期について速やかな事前情報提供」、日米地位協定を抜本的に見直し、航空法や環境法令などの国内法を原則として米軍にも適用させること、事件・事故時の自治体職員の迅速かつ円滑な立入の保障などを明記すること、「基地の整理・縮小・返還」の促進を求めています。

沖縄県は、イタリア、ドイツを訪問し、聞き取り調査を実施して、中間報告を公開し、「米軍の活動にも国内法が適用される」、「受入国側に米軍施設への立入権が明記されている」など、日本と著しく違いがあることを紹介しています。こうした調査研究をもとに全国知事会の提言が採択されました。日米地位協定は改定したことなく、不平等なものです。山口県にとって住民の平穏な生活を守るために地位協定改定は喫緊の課題です。

しかし県議会は10月4日、米兵の沖縄女性殺害との関係で、2016年に地位協定の「改善」を付記しただけの「意見書」を採択したとの理由で、正面から「地位協定改定」を求める意見書の請願を否決しました。委員会案の不当性にたいして、紹介議員井原すがこ氏が、否決反対の意見をのべました。

井原すがこ議員（要旨）

昨年の艦載機移駐により、米軍岩国基地は極東最大級の基地になり、航空機騒音は一段と増加し、事件・事故なども引き続き発生するなど、市民の不安が高まっている。こうした基地被害を軽減・防止するために、日米地位協定の改定が必要であることは言うまでもない。

渉外知事会も、毎年度、日米地位協定の改定要望を行っており、本県議会でも山口県から「改定に向けて積極的に提案し、議論をリードしている」との力強い答弁もいただいた。

これまで米軍基地をめぐる問題が発生すると、その都度運用の改善などで対処されたが、地位協定自体の改定は一度も行われていない。しかしドイツやイタリアでは、すでに改定が現実のものとなっており、日本でも私たち米軍基地を抱える地域の切実な声を背景に、国が強い意思を持って交渉に臨めば、地位協定の改定は必ず実現できるはずであり、今まさにそうした努力をすべき時期に来ていると思う。

すでに多くの地方議会から同趣旨の意見書が出されており、山口県議会からも意見書を提出することが地位協定の改定に向けて知事の強力な後押しになり、国そして米国を動かす力にもなることは間違いない。まさに今、提出する意義がある。議会としてもこの請願の重要性を理解し、その採択に向けた積極的な判断をすべきである。請願を不採択とした委員長報告に反対する。

9月6日には山口県市長会が、外務・防衛大臣、県選出国会議員、山口県知事に「地位協定の見直し」を求める要望書を採択、送付しているため、県議会の不採択は、市長会と県民の意思を無視した暴挙です。

山口県市長会と中国5県市長会は意見書を採択

9月4日福田岩国市長は、地位協定の改定を求める意見書を国に提出し、山口県市長会でも提言することを約束、市長会は9月6日岩国市の提議を採択、外務・防衛大臣、県選出国会議員、山口県知事に意見書を送りました。中国地方5県の市長会も10月9日、同趣旨の意見書を採択しました。

山口県市長会の意見書（要旨）： 現行の日米地位協定では基地に起因する諸問題を解決できない。全国市長会は地位協定の抜本的な見直しの要望をおこなったが、見直しされていない。全国知事会は抜本的見直しを全会一致で日米政府へ提言した。日米地位協定の見直しは米軍基地を抱える自治体の共通の課題である。国民の生命、財産、人権等に係る重要な問題であるから、強く要望する。

全国の動向

山口県議会は地位協定改定の意味を理解せず、意見書提出を否決しましたが、全国知事会が国にたいして地位協定改定を求める意見書を提出したのをうけて、すでに11道県議会、65市＋沖縄県市議会、そして下記97町村＋沖縄県町村の議会が、改定要求の意見書を国に提出しています（2019.7.8.現在）。

意見書を提出した町村議会 北海道：斜里町、豊浦町、知内町、余市町、広尾町、倶知安町、白老町、長沼町、東川町、上士幌町、古平町、上川町、音更町、幕別町、青森県：大間町、風間浦町、岩手県：雫石町、矢巾町、普代村、秋田県：上小阿仁村、小坂町、五城目町、藤里町、八郎湯町、井川町、美郷町、福島県：川俣町、桑折町、群馬県：甘楽町、埼玉県：鳩山町、小鹿野町、新潟県：湯沢町、長野県：南相本村、川上村、中川村、北相木村、小海町、立科町、軽井沢町、御代田町、佐久穂町、池田町、朝日村、辰野町、大桑村、本祖村、王滝村、上松町、高山村、木曾町、南木曾町、山ノ内町、南箕輪村、長和町、南牧村、宮田村、下諏訪町、豊丘村、青木村、飯縄町、栄村、下条村、野沢温泉村、神奈川県：二宮町、岐阜県：八百津町、愛知県：扶桑町、三重県：御浜町、京都府：南山城村、大阪府：忠岡町、熊取町、奈良県：三郷町、平群町、広陵町、斑鳩町、川西町、王寺町、和歌山県：串本町、九度山町、鳥取県：琴浦町南部町、北栄町、岡山県：鏡野町、広島県：北広島町、安芸高田町、安芸大田町、高知県：四万十町、土佐町、いの町、本山町、芸西村、大月町、福岡県：築上町、鞍手町、糸田町、鹿児島県：屋久島町、沖縄県：嘉手納町、南風原町等ほとんど全町村。

地方自治体が国に意見を述べて、国の政策の変革を求める、こうした全国の動きに、山口県議会はほとんど理解をもたず、山口県市長会が地位協定改定を求めたことへの理解もなく、請願を却下した暴挙は、いずれ山口県民の厳しい批判にさらされるでしょう。それが民主主義の原則です。

議員発言（周防大島町議会 2019.9）

田中豊文 米軍岩国基地再編交付金と騒音対策について

交付金がどのような事業に使われ、町民の安心安全対策として活用されているのか、県の住宅環境改善補助金の上乗せ策や独自施策など、直接的な負担軽減につながる使い方ができないか質した。騒音や苦情に対する積極的な情報収集のありかたも質問した。答弁では、関係自治体と協議して国に要望していくということだったが、町独自に情報収集し、予測コンターや騒音データでは表せない地域の実態に基づいて要望する必要があると指摘した。

周防大島町の町民を含む団体から日米地位協定改定を求める請願が県議会に提出されている事について、町民の安心安全を守るべき立場の町長としてどのように受け止めている

椎木町長 地位協定改定に関して各市町や県から要望が出されていることは認識しているが、本町で直接的なものとは感じていない。岩国市が県と一緒に地位協定を含む安全対策を進めるべきだ。町独自で騒音測定器を設置しても国と同じ基準のデータが得られない。国が設置する騒音測定器のデータを基に国に要望すべきだ。

（議員：町独自で町全体の騒音データや目視データや苦情などを収集し、国に安心安全対策を要望することが必要であるというのが私の意見である）

70 デシベルを超える騒音飛行の回数 年間合計

WHO（世界保健機関）の基準によると、70 デシベル以上の騒音は人間の健康に悪影響を及ぼすとされており、中四国防衛局は、70 デシベル以上の騒音が5秒間続いた飛行の回数を騒音測定の数表にあげています。

基地周辺地域の通常の基地爆音は70 デシベルをはるかに超え、しかも5秒以内で収まる飛行はまずありません。しかし70 デシベル5秒間というのも、爆音飛行を規制するためのひとつの基準にはなりません。

一般的には、80 デシベルは「走行中電車内、救急車サイレン（直近）、パチンコ店内。会話は大声で30cm以内でない」と成立しない」、また70 デシベルは「高速走行自動車内、騒々しい事務所内、セミ鳴き声（直近）。会話は1m以内で大声で」、という程度の騒音といわれていますが、大空にこのような爆音が響きわたる状態を想像すれば、これが日常生活にとってかなりの重圧となり、健康に悪影響を及ぼすことは明らかですから、防衛省が示している70 デシベル、5秒という基準も納得できます。

艦載機移駐以後、岩国市で基地騒音が激しくなり、苦情電話が激増したといわれていますので、大島では一体どうなっているか、今提供されている防衛省の騒音記録のデータで調べてみました。その結果は次のとおりです。

ここで各地点別に示した数値は、4月から翌年3月までの1年間に、騒音と規定されている70デシベル以上、5秒間以上の爆音で米軍機が飛行した回数です。(2019年は4～7月の4カ月を合計した回数)

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
岩国市三笠町	3,411	2,761	1,548	1,915	3,362	4,640	61
岩国市千鳥丘	2,213	1,526	1,652	1,309	2151	2,686	34
周防大島三蒲	1,776	1,464	1,716	1,298	2,172	2,886	35
周防大島浮島	680	418	446	331	660	1,398	19
周防大島久賀	461	389	337	233	322	573	9
周防大島大島中					506	1,574	22
周防大島油田						177	4

艦載機移駐を容認してから今日までの経過をみると次のことがいえます。

1. もともとは岩国市の各地のほうが大島よりはるかに多かったが、2015年に、滑走路へ着陸するコースの真下になる大島の三蒲の騒音飛行回数が、岩国市の2地点よりも多くなっている。移駐前にもすでに激しい爆音飛行が行われていたということだろう。
2. 移駐前の2016年と、移駐後の2018年を比べると、各地とも2倍以上となった。苦情電話が激増したのはこのためである。特に大島3地点の倍率が高いのが特徴的である。
三笠町 2.4倍 千鳥ガ丘 2.0倍 三蒲 2.2倍 浮島 4.2倍 久賀 2.5倍
3. 2017年に騒音測定機が設置された大島中学校は、2018年は三蒲小学校以上の騒音飛行回数となっている。南側から文珠山を越えて北側へ飛ぶとき、山の手前は低空飛行、山をこえるとすぐ低空飛行に入りにくいためか。以後、大島中の回数は三蒲小よりも多い。大島中に至近の周防大島町役場は、基地に苦情を言っているのだろうか。
4. 浮島の飛行回数を三蒲と比較すると、移駐前はおおむね三蒲の30%以下であったが、移駐後は30%から48%に急増した。浮島住民も騒音飛行が多くなったと語っている。

以上を総合すると、周防大島町では、移駐後に騒音飛行の回数があきらかに増加したといわねばなりません。米軍再編計画のなかで、「山口県内でただひとつ、大島の爆音が激しくなる」と予告されていましたが、現実には予告どおりとなりました。この現状は、とても再編交付金増額などで清算できる問題ではありません。

松田 博さん逝く

この夏8月29日、「大島の静かな空を守る会」の代表委員 松田博さんがなくなられました。

2006年1月16日、町民12名連名で「艦載機を岩国基地へ移動する計画の中止を求める署名のお願い」と題するビラを配布、移駐反対運動をおこしました。呼びかけ人12名の冒頭に「松田博(小松)山口県高校退職教職員協議会会長」とあります。7月2日「大島の静かな空を守る会」を結成、代表委員は松田博、下中嘉六、河井弘志です。

松田さんは高教組出身の共産党員、下中さんは大日本帝国軍人を自負する老雄で、とても協力できそうにない顔ぶれですが、「大島の静かな空を守る」の一点で堅く手を握り、大島全域で署名運動を展開、全町民の67%の署名を



山口瑠璃光寺五重塔 松田博 画

集めました。

近年は健康不調で会合に出ることは適わなくなりましたが、井原勝介さんをお招きしての忘年会で、何の絵だったか、松田さんが自作の名画を井原さんに贈呈した時の満面の笑顔が、鮮やかに思い出されます。私たちは小山惇男（2013）、下中嘉六（2016）、藤村英子（2017）という仲間を送り、いま又松田さんと惜別、時代の流れを痛感します。（河井）

静かな空 おおしま

佐連の「みかん畑」へ手入れのためによく行きます。緑の山並みの上の青い空。波止ではのんびりと釣り客が糸をたれている。時たまヘリコプターがパタパタと音を立ていくのを目撃するだけの、のどかな村。仕事の手を休めて、風とお日様を楽しむ。いいところだなとつくづくおもったものでした。

ところが、基地の1000メートル沖合移設で様相は一変いたしました。オスプレーや空母艦載機が移駐されることにより、タッチアンドゴーの訓練は昼夜を分かたず行われていて、航空基地のある岩国だけでなく、海、島々、山間部と広範囲に大きな爆音をまき散らすことになってしまいました。

爆音の拡散は中国山地、広島（特に廿日市）、瀬戸内海の島々（基地に隣接する周防大島）で。周辺の柳井、由宇あたりまでのびていきました。基地周辺の人びとはたまらなくなって「爆音訴訟」を提起しましたが、他県の判決の例のように、「爆音の大きな被害は認めるが、爆音の元である『飛行差し止め』はむつかしい」という雰囲気でした。

裁判も国民の味方であるはずなのに、国民の「安心」「安全」は無視。

裁判所は国民の安全、安心を保障する憲法に対して、こんな態度でいいのでしょうか。

はっきりわかったことは、日本はアメリカの言いなりにしか動けない属国のようなものでしょう。日本国民の安全を脅かす低空飛行は放置されながら、空は飛行訓練場と化している。飛行ルートは軍の機密とか。

日米安保体制の中で「もみ手」でついていく姿。片務的日米地位協定。

自立した。どこにも従属しない、対等な全方位外交が望まれます。

静かな空は日本全体が求めているかなければならない、とつくづく思っています

岩国市 稲生 慧

長谷川公一先生を囲んで (2)

『静かな空』No.63(7.15)に、東北大学教授長谷川公一先生を囲んでの懇談会の記録を掲載しました。今回はその続きです。藤村友起

日時： 2019年4月25日(木)12時から

場所： 故藤村英子邸にて

参加者： 長谷川公一先生、河井弘志、河合建夫、河本正道、木谷光雄、中尾久利、藤村美千枝、藤村友起

長谷川公一先生略歴は『静かな空』No. 63 参照。

長谷川 だから、立憲民主党の枝野さんは、「自分は当時官房長官で、本当は20ミリシーベルトにしちゃいけないということは分かっていた」「でも1ミリシーベルトだったら、避難しなきゃいけない人が、100万人以上になっちゃうんですよ」「だから心ならずも、あ

の時 20 ミリシーベルトにしました、ごめんなさい」って、本来正直に言うべきじゃないかと思うんですけどね。

中尾 そう言うてくれたんかと思うた。（一同笑）

長谷川 そういうふうに言うと、みんなは「ああ、枝野さんは信用できる」って思うんじゃないかと思いますね。あの時に彼は「ただちに影響はない」を繰り返し言ったわけなんだけど・・・。

私は3月13日に、山形が実家ですので、小学校5年生の子どもがいて、南北にはもう逃げられないわけです、あの時にはね。でも実家のある山形には逃げられるので、とにかく逃げられる内に逃げたほうがいいだろうと思って。あと山形が断水とか電気が早く復活したんですよね。それで山形に行ったんですけど、それで3月15日の時点で、ガスの元栓をちゃんと閉めたかな、とか電気のブレーカーを落とさないで行ったので、やっぱり様子を見に行こうというので、私の妻と3月15日に、山形から仙台に、一旦、様子を見に行きました。その日の内に、山形の実家に戻ったんですけど。後で考えるとね、一番放射線のレベルが高い日が3月15日だったので、3月15日ウロウロしちゃいけなかったんです。・・・でも誰も発表してくれないので、3月15日に、こっちはそうやって、安心して行動してたわけです。

友起 あの、あれは「スピーディ」ですか？

長谷川 いや、あれはわざと使わなかったと思いますよ。

河本 発表しなかったんだよね。

長谷川 だから国民を守ってないんですよ。いかに日本政府が国民を守ってないかっていうことを、みんなすごく感じたと思うね。

中尾 原子炉に消防の水をかけるだなんだ。あまりにも幼稚。この程度の技術かと、わしは思った。安全対策はなんもできてなかったよ。

長谷川 そうです。やっぱり実際に事故は起こるもんだっていう前提で、それでも原発を必要だと考えますかっていうことで選択するしかないんですよ。

木谷 どっかの先生が言いよったよ、200年かかるって。安全な原子炉を作るのに。

河本 最近のマスコミで、ちょっと僕が疑問に思うのは、原子力に関する技術者をね、もっと増やさなアカンという論調がありますよね。原発事故の処理のために。ほんまに原子力技術がなかったらそんなんできないんかと僕は思うんやけどね。それがなんか、まやかしのよう。どうも原発をこれから作る下準備をしてるような感じを僕は受けるけどね。最近のテレビやら新聞の報道を見て、技術者が足りないとか、それ以前の問題が僕はあると思う。

河井 今度、原発の処理なんか、外国人の労働者を呼び寄せるといふ。日本人は誰もやる人がいないんでしょ。ひどい話だなと思ったですね。

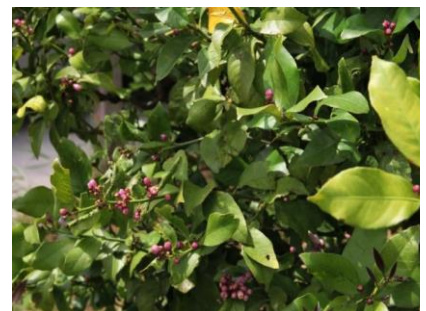
長谷川 結局安い賃金で文句言わずに働いてくれて、それから、あるタイミングで帰ってくれるから、影響についても調べなくても済むっていう・・・だからすごく便利なわけですよ、そういう意味では。

河井 後で医療の手当をする必要もないし。

長谷川 そういうことですよ。

河本 そういうこともあって、法律を通すのを急いだのかもわからんよね。

河井 それはあるでしょうね、ウラは見えなかったけどね。・・・やはり、政治家の能力ってすごいね。恐るべき力を持ってやりきる。例えば福島の出身の、実際に被害を受けている



4月26日長谷川先生は生まれて初めてレモンの花と実を見た

長谷川撮影

政治家たちと、それと受けていないで理念的に「これはいけないことだ」と言うのと、だいぶ違うと思うんですが。

長谷川 ただ国会議員とか、国政の政治家には、自分が直接深刻な影響受けてる人はいないんですよね、私の知る限りでは。

河井 ああ、なるほど・・・それが致命的ですね。基地問題もそうですね。沖縄の人や議員たちは否でも応でも(基地公害に)さらされてますから。だけど他のところの議員は基地の被害を実感してない。私はとにかく近頃、人間ってこんなに馬鹿だったのかなと思うくらい。これでも分からんのだろうかと思うね。

長谷川 結局、福島原発事故で誰も正式な意味で責任取ってないんですよ。

中尾 ちょうど、民主党が政権取った時じゃけえ、もっとまずかったように思うがの。

友起 いや、でもあれ自民党政権の時だったらもっとひどかったんじゃないですか？あの当時、福島がひどいことになるとる時に、大阪かどっかでゴルフしとった、清水社長かな？東電のね、官邸に電話して「全員退避させて下さい」って。その時菅さんがすごい怒ってから、それから東電に乗り込んで怒鳴ったんよね。

中尾 あの男も優柔不断な男じゃけえの。(一同笑)。

美千枝 でも菅さん頑張ったと思う、自ら乗り込んで行って。まあそれが迷惑だったっていう話もあるけど。

中尾 宇部の人なんよね、あの人。

河本 高校時代だね、高校時代は宇部の人。

河合 ほいで、私のとこの、アンコウ(安下庄高等学校)の、お父様が校長やってたのよ。菅さんのお父さんが。

中尾 菅さんはあの当時福島原発から東京までの300キロ圏くらいが駄目になるって言いよった。

長谷川 最悪の場合ね。

河合 菅は・・・ヘリコプターをチャーターして、「ベントを開け！ベントを開けー！」「ベントを開けー！」て言った。ガス抜きをへにゃあ、ガス抜きをへにゃあ・・・と。

美千枝 だって爆発するよりいいじゃないですか。

中尾 ええがね、そのお陰で飯舘村やなんかまあ。

河合 「ベントを開け！開け！」いうて、あなた、ヘリコプターチャーターしてですよ。

友起 でも何とかしたかったんじゃないん？(笑)

美千枝 そうよ、一生懸命だったと思うよ、菅さん。

木谷 あれ電源喪失で、ベント開けんかったんよ。

中尾 手動で開けたんじゃろ

河合 手動でもあかだったんよ。とにかくベントは開かずじまいでメルトダウン起こした。

中尾 アメリカに一生懸命聞きよったんよ、「どうしたらいいんでしょう」「どうしたらいいんでしょう」って。「全部水で囲め」って言われたんよ。

長谷川 当時、麻生首相だった可能性もあるんですよ。だって総選挙で、麻生が鳩山に負けたから、政権交代したわけなので。あれがずーっと麻生政権だった可能性があるわけですね。仮に麻生総理だったとして、菅首相よりも上手くやったと思う国民はどれくらいいますかね。(笑)

中尾 祝島なんか、島ですからね。万が一の時に避難のしようもないですよ。山口県の反原発の集まりには大分県からも来ますよ。あそこへできたら大分もまともに被害受ける。

河本 今の福島県でね、世論調査をして、原発をすぐになくさんとあかんていうのは何%くらいいるんですか。そういうあれはないんですか。

福島県原発ゼロに決定

長谷川 いやありますけどね、日本全国で、原発を少なくする方向にっていうのが大体7割ぐらいなんですよ。福島県の第二原発は4基あるんですけどね、それはもう運転再開しないって。東京電力は、正式にそれを発表していないと思うんですけど、事実上認めざるをえない状況です。そういう意味では、福島県内の原発が動き出すことはないんです。

中尾 あれは県知事が断ったっていうんじゃないんですか。全部のけてくれって。

長谷川 そうです。

河本 女川っていうたら、宮城県？

長谷川 宮城県です。宮城県は知事が原発が好きなの・・・大阪出身なんですけど、防衛大学校出て、それで自衛隊のパイロットだったんです。今問題になってる水道民営化賛成で手を挙げてる唯一の県知事なんです。

河本 オリンピック誘致を一生懸命、ボートとか、あの東京都知事と一緒にね。

長谷川 すごく懇懇な人でね。私が挨拶された中で、男性でね、こんなに丁寧に私に挨拶してくれた人はあなたしかいないっていう・・・三越のエレベーターボーイはかくなるものじゃないかなというくらい、丁寧な人なんですよね。話も上手で、それで東北大学の経済学部で講演に来たことがあってね、震災後。それを聞いた学生が感激して、「先生、さっき村井知事の講演聞きましたか？」と言うんで、「僕も聞いたよ」って言うと、「良かったですねえ」って。学生が感激してるから、「君たち騙されちゃいけないんだよ」って。(一同笑)

(以下次号)

『福島第二の廃炉』を決定いたしました

7月31日、当社は福島第二原子力発電所の廃炉を決定し、同日、福島県、楡葉町および富岡町へご報告いたしました。その後、周辺の11市町村へもご報告しております。

ご報告した概要は以下のとおりです。

1. 福島第一の廃炉作業も含めた要員確保

- ・廃炉を進めるにあたり、福島第一の廃炉と並行することを踏まえ、要員の配分等に十分配慮していく必要があるため、全4基の廃炉を終えるには40年を超える期間が必要な見通しです。
- ・できるだけ工程の短縮に努め、安全・安心を第一に廃炉作業を進めてまいります。

2. 安全な廃炉

- ・使用済燃料(約1万本)は、廃炉終了までに全量を県外に搬出する方針ですが、できるだけ早期の搬出に努めてまいります。
- ・廃炉を円滑に進めるため、使用済燃料を貯蔵する施設を構内に設置し、使用済燃料プールからの燃料取出しを計画的に進めていく予定です。貯蔵規模等の詳細については、今後検討を行ってまいります。

3. 地域の産業振興に向けた貢献

- ・廃炉を進めるにあたっては、資機材の調達を含め、地元企業の皆さまに参画いただけるよう、多くの機会を設けるとともに、解体物の保管容器の調達や有用物の有効利用促進などを通して、地域の振興に寄与し得るよう取り組んでまいります。
- ・これらについては、福島第一の廃炉と合わせて検討・具体化し、地域の皆さまには計画段階から丁寧にご説明してまいります。



『福島第二原子力発電所からのお知らせ』No. 66 (2019. 8. 13)

大島の静かな空を守る会 定例会議

日時 8月18日(日) 13:30-15:30 出席：河合建夫、河本正道、中尾久利、藤村友起

1. 会計報告を受ける。現金残 52,490 円を確認。
2. 空母艦載機岩国基地帰還中(8月から9月の間)に三浦地域で集まりを持つ。
3. 宣伝カーを準備して、基地問題を町民へ生の声で訴えてはどうか。
4. 伊方原発運転差止仮処分裁判傍聴に参加する。広島高裁 9月11日 13:30 -